

令和6年度 電気化学会北陸支部春季大会（石川）大会記録

日時：令和6年6月27-28日

場所：第一日目 加賀栗津温泉「旅亭懐石のとや」（小松市栗津町ワ85）（参加者 17名）
第二日目午前 金沢大学自然科学系図書館 AV ホール（金沢市角間町）（参加者 32名）
第二日目午後 金沢大学バ イオマス・グリーンイノベーションセンター（金沢市角間町）（参加者 9名）
清水建設株式会社北陸支店（金沢市玉川町5-15）（参加者 8名）

第一日目（6月27日（木））

第一日目は宿泊先での開催であったが、夕食を兼ねた情報交換会に先立ち、＜第一部：企業におけるDX・AI化の実例＞とした特別講演を企画した。高村支部長の開会挨拶の後、三菱マテリアル株式会社イノベーションセンター企画部DX推進G、西連地志穂様より「データとチームの力を引き出す研究開発DX～FET型バイオセンサ開発を例題におけるDX化の実例～」と題し、企業内でのDXを用いた研究開発の現状と今後の展望に関してご講演いただいた。データ集積の必要性は、実際の研究開発側とデータ解析側で大きな隔りがある。この隔りは両者の連携・意思疎通によって解消し、潤滑に動き出す実例を紹介いただいた。特に西連様のようにいづれも精通している方がチーム内に加わることで、より効率の良い研究開発が期待できるとのことであった。会場から、企業側では開発目的を絞りやすく、幅広い専門分野を集合したチームでの取り組みが可能であるものの、大学等では個々の研究者それぞれに目標があるため、現実的には難しいのではないかと発言もあったが、データの集積活用は今後益々、重要になるとの認識は参加者の共通認識であり、興味深く耳を傾けていた。



Fig.1 第一部の様子

富山大学鈴木顧問の乾杯のご発声から始まった＜情報交換会＞では久しぶりの宿泊を伴う大会ということもあって、宿の美味しい料理、高村支部長よりご提供いただいたお酒等を堪能しながら、各所で近況報告など、会話が花が咲いていた。引き続き会場を移動して、夜なべ談義として＜第二部：大学研究におけるAIについて＞へと移った。大学研究者のAI活用例を紹介する講師として廣瀬幹事より、「ChatGPTを使ったAI研究のデモンストレーション」を披露いただいたが、従来の「若手の会」同様、参加者からは忌憚ない意見が飛び交い、深夜まで大いに盛り上がった（廣瀬先生お疲れ様でした）。

第二日目（6月28日（金））

第二日目は朝食後、会場を金沢大学に移し、午前には2件の特別講演、午後には二か所に分かれ、施設見学会を行なった。

特別講演では、金沢大学教授、辻口拓也様より、「エネルギーキャリアとしてギ酸を用いるための要素技術開発」を、金沢大学准教授、浅川雅様より「液中原子間力顕微鏡を用いた固液界面現象の原子・分子スケール理解」をそれぞれご講演いただいた。辻口先生はエネルギーキャリアとしてのギ酸の有用性だけでなく、ギ酸燃料電池のプロトタイプまでを考え、AIを活用し始めているとのことで応用に興味を持つ学生には大変面白い講演であった。一方で浅川先生は分子次元での固液界面の正体を液中3D-AFMを利用して挑戦し続けていることを紹介された。電気化学でも固液界面の電子授受に際して、物質の吸着挙動は非常に関心のある領域である。どちらの講演も活発な質疑応答が行われた。

昼食後は二つの施設見学を実施した。金沢大学バイオマス・グリーンイノベーションセンターは金沢大学内に株式会社ダイセルの援助を受け建設されたオープンイノベーション拠点である。階段上になった木質調のステップホールにてダイセルのバイオマスの有効活用と、バイオマスバリューチェーン構想の推進をスライドで紹介いただいた後、研究施設を案内いただいた。一方、最先端の水素エネルギーシステムを導入した「超環境型オフィス」となる清水建設株式会社北陸支店では、本社技術研究所の方も加わり、水素エネルギーシステムについて説明いただいた。水電解による水素製造から水素吸蔵合金を利用した水素貯蔵、水素燃料電池といった装置を間近に見ることができただけでなく、エネルギー変換とその有効活用についても説明いただき、大変参考になった。

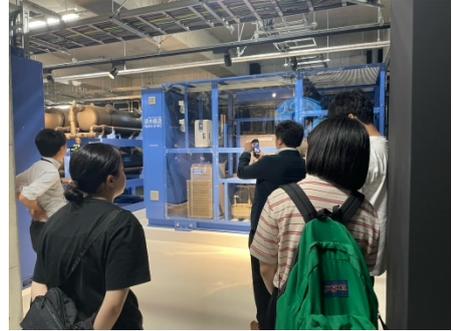


Fig.2 水素製造装置の見学

以上